

令和2年度八代市医師会事業報告

令和2年2月に熊本県で1例目の新型コロナウイルス感染症感染患者が確認され、八代市では7月に1例目が確認、令和2年度中で延べ175人が感染し内3名の方が亡くなっている。

八代地域での感染拡大時に濃厚接触者やフェーズが進んだ場合などを想定して、行政検査を担う八代保健所並びに発熱患者などの診察、検査を行う帰国者・接触者外来（熊本労災病院・熊本総合病院・八代北部地域医療センター）の負担軽減を主な目的として、当初、八代保健所から必要と認められる疑似症患者に対するPCR検査のみを実施する検査体制を八代保健所の助言をいただきながら重ねた。

この協議などを踏まえ、熊本県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業の帰国者・接触者外来等設備整備事業を活用し、PCR検査の検体採取（ドライブスルー方式）が可能な八代市医師会地域外来・検査センターの整備と感染症検査機関等設備整備事業を活用して、検体検査が可能なLAMP法遺伝子検査システムの整備をした。また、既存の酵素免疫化学発光法（ルミパルスG1200）の検査システムを抗原検査が可能なシステム変更を行い、新型コロナウイルス感染症の検査機能がワンストップで対応できる体制整備を構築した。

これにより、八代市医師会地域外来・検査センターは、登録保険医療機関としての届出を行い、主治医（登録医療機関）がPCR検査を必要と認めた場合（検体採取並びに検体検査）の保険診療で利用いただいている。

また、八代看護学校の学則変更についてである。近年の准看護師課程への入学者の減少、中途退学者の増加などによる運営状況の困難と令和4年度からの新カリキュラム導入に伴い、令和2年6月に八代看護学校運営検討委員会を立ち上げ、今後の看護学校運営に関する医師会員向けアンケート調査を実施し、数回の検討を重ねながら理事会での協議を経て、全員協議会での協議、令和2年度八代市医師会臨時総会へ議案上程を行い、看護師2年課程については現状維持、准看護師課程については新カリキュラム導入の令和4年4月に学年定員を40名1クラスとする八代看護学校の学則変更に関する承認が得られた。これを当面の八代看護学校の運営方針として財政面の健全化を図りつつ、両課程の入学者などの状況や他校の状況も注視しながら次のステップも検討しなければならない。令和2年度、八代市医師会の大きな流れは以上であるが、以下は各事業部門の主たる事業について報告する。

《医師会事務局》

1) 公衆衛生向上及び社会福祉増進を図る事業（地域保健・学校保健・母子保健・産業保健・福祉医療） 2) 医道の高揚・医学医術の発展普及を図る事業 3) 会員相互扶助事業の業務がある。学校保健では、小中学校における学校医手当て等の予算折衝や学校医の配置など、関係機関と緊密な連携を取りながら最新の情報収集、提供と迅速な対応に努めた。

また、熊本県の新型コロナウイルス感染症の感染対策の一環として、八代市医師会受診案内センター業務を受託し、発熱等の症状がある住民に対してかかりつけ医の紹介や検査受診可能な診療・検査医療機関の紹介などの相談業務に従事した。

《看護学校》

地域医療において、医療・保健・介護・福祉のそれぞれの分野で専門性を活かした看護師及び准看護師養成の重要性を踏まえ、看護師国家試験並びに准看護師検定試験では100%の合格で常に県内トップクラスの合格率を維持し、卒業生の県内就職定着率もAランク評価の調整率を得ている。

また、看護師2年課程・准看護師課程ともに受験者数が減少傾向にあり、担当理事を中心に種々の検討を重ねられ、オープンスクールの開催などに取り組んだ。

《健診検査センター》

医師会共同利用施設として、地域・職域での各種健診やがん検診など多岐にわたる業務を担い、疾病の予防・早期発見に努め、早期受診の勧奨を行い、また、八代地域唯一のラボとして質の高い精度管理を基本に、緊急及び24時間対応の検体検査体制を整備し、健診業務並びに検査業務それぞれであらゆるニーズに迅速かつ的確に対応した。特に新型コロナウイルス感染症対策では、PCR検査・抗原定量検査の検体検査における充実した検査体制を確立した。

《訪問看護ステーション》

地域包括ケアシステムの構築に向けた訪問看護ステーションの重要性と医療・介護・保健・福祉など、多職種のリーダー的存在としての体制整備が着実に進み、医療の立場からは特に医療依存度の高いケースに重点的に対応した。

また、居宅介護支援事業所では、必要スタッフの配置が完了し、特定事業所加算取得も可能となり、関係機関との連携を図りながら業務に取り組んだ。

《医師会立病院》

医療療養病床（入院基本料 I 100床）での病床稼働で医療区分2または3の入院患者を3ヵ月平均で80%以上という厳しい基準を維持するために、医師・看護部・地域医療連携室を中心にスタッフの連携によるプロフェッショナルティに感謝しなければならない。

また、地域在宅医療サポートセンター事業を活用した開業医からの軽症者の入院体制や在宅医療の推進についても体制整備が着実に進んでいる。

《夜間急患センター》

八代市の委託を受け、本会会員の尽力で八代市民の夜間急患センター利用が着実に定着している。特に小児医療については、小児科医会並びに内科協力医師による小児医療の充実が八代市医師会活動の大きな柱の1つである。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えが顕著に表れている。夜間急患センターとしても感染予防など、十分な対策を講じた診療体制を更に図らなければならない。